



編集・発行  
 日蓮宗 能勢妙見山  
 広報部  
 〒563-0132  
 大阪府豊能郡能勢町野間中  
 電話 072-739-0329  
 FAX 072-739-2883

# 宗祖日蓮大聖人御会式法要

11月12日(土)～13日(日) 11時・14時 北辰閣2階御宝前にて  
 真の平和と万人の幸福を実現するための教えが法華経です  
 その法華経を説き弘めるために一生を捧げられた日蓮大聖人の  
 忌日にあたり聖人を偲び感謝する法要が御会式です  
 参詣者には御会式桜とおはぎの供養があります

〔11月の主な行事〕

☆七五三詣祈禱 1日～30日

◎お子様の成長を祈って、11月中ご祈禱します  
 ※祈禱札並びに御守り・記念品等を贈呈

☆宗祖日蓮大聖人御会式法要

12日(土)～13日(日)

★清掃の日 15日(火)11時

★月例祈願法要 15日(火)13時

★月例祈願法要 22日(火)15時

●11月の写経会は休止します

●星嶺演奏会・茶論は当面の間休止

〔12月の行事予定〕

★写経会 11日(日)11時

★清掃の日 15日(木)11時

★月例祈願法要 15日(木)13時

★月例祈願法要 22日(木)15時

★月例祈願法要 開運殿にて厳修

★月例祈願法要 開運殿にて厳修

★月例祈願法要 開運殿にて厳修

○諸行事は社会情勢により変更する場合があります

◎写経はご自宅でもできます お問い合わせ下さい

○出会いの鐘巡りは「ひらがなあつめ」に代えて実施中

○登山カード押印は休止

○送迎車の運行は休止しています

◆ケーブル&リフトは水木が定休日です(ただし、

行楽シーズンなど例外あり)。詳細は能勢電鉄へ

お問い合わせ下さい。(TEL 0727927716)

# 法華経読誦の功德

倉橋 觀隆

今年のNHK大河ドラマは『鎌倉殿の十三人』が放映されています。源頼朝が鎌倉幕府を起こし、北条氏が実権を握っていく過程が描かれています。この時代に生きられたのが日蓮大聖人です。

ところで頼朝は非常に熱心に法華経を読誦していました。日蓮大聖人もこの功德で頼朝が幕府を起こすことが出来たと称賛されています。大聖人はその頼朝にまつわる次の様な逸話を語っておられます。

筑紫の国に大橋太郎という御家人がおりました。ある事件で頼朝の怒りをかい鎌倉の牢に幽閉されたのです。太郎に間もなく男児が生まれましたが、その子は父の顔を知りません。物心ついた童子は母に父のことを尋ねました。その時母は

父のことを案ずるならば仏様への給仕と法華経読誦に励むよう諭しました。

童子が十二才になった時、鎌倉へ出て鶴岡八幡宮に父の無事を祈り、神前で法華経を読誦し始めました。そこへ参詣した家臣の耳に神殿に響き渡るお経の聲が入って来たのです。見ると童子が経本も見ず全巻誦んじているではないですか。澄み切った声に感動し早速主君にこのことを告げました。頼朝はすぐにその童子を連れてくるようにと命じました。

頼朝は童子のお経を聞いている内に我知らず涙で頬をぬらししていました。折しもその時、ある囚人がこれより処刑される旨の報告が入りました。そのことを耳にした童子が涙ぐんだのです。いぶかしく思った頼朝がその訳を質すと、父の身の上と重なったと答えました。なんとその囚人

は童子の父だったのです。

頼朝は即刻処刑を中止させ、罪を許し所領を安堵させたという事です。

まさに法華経読誦の功德の甚大なる例証として大聖人はたびたび弟子、信徒に語られていました。

法華経には読誦が最重要修行として勸奨され、同時にその功德が随所に説かれています。私たちも今一度自ら法華経の経力を確信しようではありませんか。

## 小松原法難

11月11日、宗祖日蓮聖人の一行10余人が小松原(現、千葉県鴨川市)を通りかかったとき。法華経嫌いで、聖人を逆恨みする東条景信らの襲撃を受け、弟子鏡忍房と工藤吉隆が討ち死にし、聖人ご自身も眉間に傷を負われました。この法難の地に建てられたのが鏡忍寺です。法華経を命懸けで説き弘めようとされた日蓮聖人の事蹟のひとつです。

## 《法華経に学ぶ現代》

〜純智庵〜

### 子の母を

生まれた子供に 何よりも

必要なのは 母の愛

### 得たるが如く

胸に抱かれて スヤスヤと

明日を夢見て眠ります

### 渡りに船を

それと同じで 人生に

必要なのが 助け船

### 得たるが如し

人のご縁を大切に

夢と希望の大船を

母なる海に浮かべましょう

『薬王菩薩本事品第二十三』

## 仏教まめ辞典

### 利益

円安がどこまで続くことかと気にかかる昨今。利益と書いてあれば「りえき」と読むのが普通でしょう。

寺社へお詣りしたときに、家内安全、商売繁昌、学業増進など様々なお願いをします。が、このように神仏からいただく恵みのことは利益と書いて「りやく」と読みます。仏や菩薩が衆生に恵みを与えるという意味の仏教語です。ただし、仏にいたたく利益とは、必ずしも目に見える物質的な恵みを与えて下さるといふわけではありません。というよりむしろ精神的な意味での恵みをいただくことのほうに大きな意味があります。金利や株の変動に対応することも大切ですが、目先の「りえき」に心身をすり減らすだけでは人生を楽しむことはできません。心の安らぎを得ることも人生にとっては大いなることではないでしょうか。